

# 琉球大学学術リポジトリ

## 資料等

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学教育センター 公開日: 2018-07-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: ー メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/41409">http://hdl.handle.net/20.500.12000/41409</a>

## 編集後記

西本裕輝（大学教育センター）

今回は「URGCCが目指す学士教育課程の質保証」を特集した。

周知のように、本学では今年度から URGCC が本格導入された。実施に向けて本格的な議論が活発化することと予想されるが、第1部には、導入前の状況を把握するための学生調査についての分析結果速報を掲載した。導入後に同様の調査を実施することにより、様々な比較が可能となる。例えば、満足度はどう変化したか、学習時間はどう変化したか、授業理解度はどう変化したか、教育目標の達成度はどう変化したかである。そのための基礎資料として確認していただきたい。なお、本調査の結果は、今後各学士教育プログラムへのフィードバックを行う予定である。

第2部では、各学士教育プログラムで実施されている質保証の取組例として、三つの報告を掲載した。URGCC の導入に伴い、学生の入学から卒業まで一貫して責任を持つ最小単位として「学士教育プログラム」という組織を明確化した。今後は学士教育プログラムを単位として様々な質保証システムが再整備されていくことになるだろう。その先進例として、見ていただき、各プログラムの教育改善のための参考としていただきたい。

第3部では、例年のこととなったが、プロフェッサー・オブ・ザ・イヤーの受賞者の取組実践について紹介している。質保証のためには「よい授業をすること」が欠かせない。各分野のよい事例を全学で共有することにより、さらなる教育力の向上に繋がると思われる。

2012年3月26日に中教審の大学分科会において「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」（審議まとめ）が公表された。その中でも2008年答申「学士課程教育の構築に向けて」に引き続き、「質保証」がキーワードとなっており、ますます大学として質保証にどう対応するかが問われてくる。本報が本学の質保証に向けた取組の一助となれば幸いである。